

R6年度自己評価結果公表シート

認定こども園 新光明池幼稚園

1. 本園の教育目標

幼児の発達や学びの連続性を踏まえ、幼児が多様な経験を一つ一つ重ねていくこと、又、五感を通して「自分で体験し感じる」教育を重視している。園生活の中で教員との信頼関係を育て外へのかかわりを広げ、遊びを通して集中力、持続力、忍耐力や豊かな人間関係、知的好奇心や小学校の教科教育の土台となる学びの芽を培う。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ・園内安全管理の強化
- ・保育の質向上
- ・連続した保育・教育を実現するための工夫
- ・教職員の専門性と質の向上
- ・子どもの学びを促す環境の充実
- ・保護者への情報発信と連携
- ・新たな保育活動の取り組みを検討する（今後の存続に向けて）

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	取組状況
園内安全管理の強化	・NTT 災害伝言ダイヤルに録音する際のシンプルかつ有効的な文言について訓練を月2回行う。・今年度はバス運行中に地震が起こった際のマニュアル作りに時間を割きある程度のレベル段階のマニュアルを作成した。次年度は実際にバスを走らせながらの訓練を行う予定である。
保育の質向上	・公開保育を実施し現在の自分たちの保育の位置を確認し新たなステップへと向かう。公開保育に向けて話し合いの機会を多く持てたことで関係性の向上に加え保育を深く考える視点が高まった。
連続した保育・教育を実現するための工夫	・公開保育の際の話し合いの中で、課題の一つとして、「他の学年が見えない」という意見から、夜の時間を使用して、正職員ミーティングを実施した（3回）。テーマ：生活習慣の流れを話し合おう。学年を越えて理解につなげよう。（片付けや給食の考え方など） その結果、0歳から年長児までの流れについて理解が進み、他学年の保育者の考え方に触れる

	<p>ことで視野が広がった。次年度も継続したい。</p>
教職員の専門性と質の向上	<p>外部講師（絵本の読み聞かせ、特別支援）の定例研修以外にも園外の研修をすべてのスタッフが受講する。園独自で園内 ECEQ（園内公開保育）をスタートする。大阪府幼児教育アドバイザーフォローアップ研修を当園で実施。当日は、コーディネーターとして副園長が年長組ミーティングに関わる様子を公開した。（別紙参照）。園内研修をコーディネートする立場の保育者（ミドル）を1名選び、研修にて育成している。「人権擁護のためのチェックリスト」を全スタッフに配布しチェックを実施。自分たちの何気ない言葉や振る舞いについて振り返る。</p>
子どもの学びを促す環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちがワクワクする園庭をと、園庭改造プロジェクト継続。（専門家及び植木屋さんと連携して） ・各クラスに環境充実費を支給し、厳選した教材、玩具や遊具を揃え、環境を整える。 ・給食室と園の畑と保育の連携がスタートする。預かり保育時のおやつ作りや、さやえんどうの筋取り等、子どもたちが楽しんで食育を経験できる工夫を給食室スタッフが中心となり進める。
保護者への情報発信と連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が「子育てが楽しい」と思える仕組みづくり。→園庭サポーター活動開始、ポニー当番、草花アレンジメント 等 ・「一日お母さん先生」を募集し、保育参加をする機会を作っている。・以前から保護者からの要望があったことへの対応⇒玄関に、感染症報告ボード、給食室からのレシピを置き情報発信。
新たな保育活動の取り組みを検討する （今後の存続に向けて）	<ul style="list-style-type: none"> ・5歳児の子どもたち対象に異文化コミュニケーション活動を試験的に開始する。外国のルーツを持つ人々に数日保育参加する中で、その国の文化・言語・遊び等教えてもらう。その国の説明動画を作成してもらい全スタッフも学ぶ。 <p>R6年度は、オーストラリア、韓国を実施した。</p> <p>手探りの状態でスタート。（別紙参照）</p>

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理由
概ね達成できた	<p>本年度は83名のスタッフと、約300名の園児と穏やかに生き生きとした日々を送ることができた。自分たちの保育を振り返り、保育力を向上していく努力を怠らないようスタッフには求めている。新たなチャレンジを入れながら、前進していく園でありたい。</p> <p>園スタッフは子どもたちの育ちを願い、一致団結して保育及び教育に当たっている現状にあり大きなトラブルも少ない状況である。</p> <p>園の運営及び保育目標を的確に設定・実行し、振り返る一連の流れがスムーズにいくよう努力していきたい。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
異年齢児保育や地域活動の再開	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度はコロナ禍で中止していた地域との連携活動が再開する1年であった。次年度も継続していくことができるよう計画したい。
教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「5歳児カリキュラムが忙しすぎる」「コーナー保育が難しい」「0～5歳児の流れで保育を進める重要性」等、保育面での課題に対して対応していく必要がある。 ・支援児が増加傾向にあるため、サポートシステムの検討が必要である。 ・幼小接続、小学校との連携を進めていきたい。 ・異文化コミュニケーション活動の継続
安全管理組織の強化	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時のバス運行に関しては次年度更に訓練を進めていきたい。

6. 学校関係者の評価

特に指摘すべき事項はなく、妥当であると認められる。

7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。